

現行条文（令和4年版）						新条文（令和5年版）						改定理由											
編	章	節	条	項	項以下	編	章	節	条	項	項以下		編	章	節	条	項	項以下					
																			(15) 法定休日・所定休日（連休二日の導入）	新規追加			
																			(16) その他				
1	1	1	4	1	18																		
1	1	1	13	5	3	(15) その他	1	1	1	4	1	19											
1	1	1	1	13	5	3	受注者は、「公共工事等における新技術活用の促進について」（平成26年3月28日、国官総第344号、国官技第319号）、「公共工事等における新技術活用システム」実施要領について（平成26年3月28日、国官総第345号、国官技第320号、国官施第17号、国総施第141号）による必要な措置をとるものとする。	1	1	1	13	5	3								受注者は、「公共工事等における新技術活用の促進について」（令和2年7月1日更新日、国官総第20号、国官技第41号）、「公共工事等における新技術活用システム」実施要領について（令和4年4月1日、国官総第185号、国官技第391号、国官施第19号、国総公第252号）による必要な措置をとるものとする。	更新	
1	1	1	13	5	5	(2) 受注者は、施工者希望型によりNETIS登録技術を活用した施工を行う場合、新技術活用計画書を発注者に提出しなければならない。また、当該施工が完了次第活用効果調査表を発注者に提出しなければならない。ただし、活用効果評価の結果、継続調査が不要と判断された技術（NETIS登録番号の末尾が「-VE」とされている技術）は活用効果調査表の提出を要しない。	1	1	1	13	5	5	(2) 受注者は、施工者選定型によりNETIS登録技術を活用した施工を行う場合、新修正技術活用計画書を発注者に提出しなければならない。また、当該施工が完了次第活用効果調査表を発注者に提出しなければならない。ただし、活用効果評価の結果、継続調査が不要と判断された技術（NETIS登録番号の末尾が「-VE」とされている技術）は活用効果調査表の提出を要しない。								修正		
1	1	1	14	1	2	なお、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地すべり、落盤、火災、騒乱、暴動その他自然的または人為的な事象による工事の中断については、1-1-42臨機の措置により、受注者は、適切に対応しなければならない。	1	1	1	14	1	2									なお、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地すべり、落盤、火災、騒乱、暴動その他自然的または人為的な事象による工事の中断については、第1編1-1-42臨機の措置により、受注者は、適切に対応しなければならない。	誤植	
1	1	1	19	4	1	4. 再生資源利用計画	受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。	1	1	1	19	4	1	4. 再生資源利用計画	受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄からなる建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令等に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書にその写しを添付して監督職員に提出しなければならない。								誤植
																					また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画を公衆が見やすい場所に掲げなければならない。	文言追加	
																					受注者は、土砂を再生資源利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、法令等に基づき、速やかに受領書を搬入元に交付しなければならない。	新規追加	
1	1	1	19	5	1	5. 再生資源利用促進計画	受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。	1	1	1	19	6	1	6. 再生資源利用促進計画	受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書にその写しを添付して監督職員に提出しなければならない。								誤植
																					また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を公衆が見やすい場所に掲げなければならない。	文言追加	
																					受注者は、再生資源利用促進計画の作成に当たり、建設発生土を工事現場から搬出する上での確認事項等	新規追加	
																					また、確認結果は再生資源利用促進計画に添付するとともに、工事現場において公衆の見やすい場所に掲げなければならない。	新規追加	
																					8. 実施書の提出	受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進 実施書」を監督職員に提出しなければならない。	
																					9. 建設副産物情報交換システム	受注者は、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物、建設発生土を搬入、搬出する場合には、施工計画書作成時、工事完了時に必要な情報を建設副産物情報交換システムに入力するものとする。 なお、出力した調査票は「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」の提出に代わるものとし、これによりがたい場合には、監督職員と協議しなければならない。	
																					10. 建設発生土の運搬を行う者に対する通知	受注者は、建設現場から土砂搬出を他の者に委託しようとするときは、「再生資源利用促進計画」に記載した事項（搬出先の名称及び所在地、搬出量）と「再生資源利用促進計画を作成する上での確認事項等」で行った確認結果を、委託した搬出者に対して、法令等に基づいて通知しなければならない。	新規追加

現行条文（令和4年版）						新条文（令和6年版）						改定理由										
編	章	節	条	項	項以下	編	章	節	条	項	項以下		編	章	節	条	項	項以下				
1	2	4	3	14	1	14.採取土及び購入土運搬時の注意	1	2	4	3	14	1	14.採取土及び購入土運搬時の注意	1	2	4	3	14	1	14.採取土及び購入土運搬時の注意	受注者は採取土盛土及び購入土盛土の施工にあたって、採取土及び購入土を運搬する場合には沿道住民に迷惑がからないようにつとめなければならない。流用土盛土及び発生土盛土の施工にあたって、一般道路を運搬に利用する場合も同様とするものとする。	誤植
1	2	4	4	11	1	11.接続部の緩和区間	1	2	4	4	11	1	11.接続部の緩和区間	1	2	4	4	11	1	11.接続部の緩和区間	受注者は、特に指示する場合を除き、片切り、片盛りの接続部には1：4程度の勾配をもって緩和区間を設けなければならない。また、掘削（切土）部、盛土部の縦断方向の接続部にはすり付け区間を設けて路床支持力の不連続をさけなければならない。	誤植
1	2	4	4	16	1	16.採取土及び購入土運搬時の注意	1	2	4	4	16	1	16.採取土及び購入土運搬時の注意	1	2	4	4	16	1	16.採取土及び購入土運搬時の注意	受注者は、採取土盛土及び購入土盛土の施工にあたって、採取土及び購入土を運搬する場合には沿道住民に迷惑がからないようにつとめなければならない。流用土盛土及び発生土盛土の施工にあたって、一般道路を運搬に利用する場合も同様とするものとする。	誤植
1	3	1	0	3	1	3.適用規定（2）	1	3	1	0	3	1	3.適用規定（2）	1	3	1	0	3	1	3.適用規定（2）	受注者は、コンクリートの施工にあたり、設計図書に定めのない事項については、「コンクリート標準示方書（施工編）」（土木学会、平成30年3月）のコンクリートの品質の規定による。これ以外による場合は、施工前に、設計図書に関して監督職員の承諾を得なければならない。	誤植
1	3	2	0	1	3	土木学会 コンクリート標準示方書【施工編】（平成30年3月）	1	3	2	0	1	3	土木学会 コンクリート標準示方書【施工編】（平成30年3月）	1	3	2	0	1	3	土木学会 コンクリート標準示方書【施工編】（平成30年3月）	土木学会 コンクリート標準示方書（施工編）【2017年制定】（2018年3月）	誤植
1	3	2	0	1	4	土木学会 コンクリート標準示方書【設計編】（平成30年3月）	1	3	2	0	1	4	土木学会 コンクリート標準示方書【設計編】（平成30年3月）	1	3	2	0	1	4	土木学会 コンクリート標準示方書【設計編】（平成30年3月）	土木学会 コンクリート標準示方書（設計編）【2017年制定】（2018年3月）	誤植
1	3	2	0	1	5	土木学会 コンクリートのポンプ施工指針（平成24年6月）	1	3	2	0	1	5	土木学会 コンクリートのポンプ施工指針（平成24年6月）	1	3	2	0	1	5	土木学会 コンクリートのポンプ施工指針【2012年版】（平成24年6月）	土木学会 コンクリートのポンプ施工指針【2012年版】（平成24年6月）	誤植
1	3	2	0	1	8	土木学会 鉄筋定着・継手指針（令和2年3月）	1	3	2	0	1	8	土木学会 鉄筋定着・継手指針（令和2年3月）	1	3	2	0	1	8	土木学会 鉄筋定着・継手指針【2020年制定】（令和2年3月）	土木学会 鉄筋定着・継手指針【2020年制定】（令和2年3月）	誤植
1	3	2	0	1	9	公益社団法人日本鉄筋継手協会 鉄筋継手工事標準仕様書ガス圧接継手工事（平成29年9月）	1	3	2	0	1	9	公益社団法人日本鉄筋継手協会 鉄筋継手工事標準仕様書ガス圧接継手工事（平成29年9月）	1	3	2	0	1	9	日本鉄筋継手協会 鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事（平成29年8月）	日本鉄筋継手協会 鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事（平成29年8月）	修正
1	3	3	2	1	1	受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、JISマーク表示認証工場（産業標準化法の一部を改正する法律（平成30年5月30日公布 法律第33号）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により認証を受けた工場）で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者（コンクリート主任技士等）が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場から選定し、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するものを用いなければならない。これ以外の場合は、本条3、4項の規定によるものとする。	1	3	3	2	1	1	受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合には、JISマーク表示認証工場（産業標準化法の一部を改正する法律（平成30年5月30日公布 法律第33号）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により製品にJISマーク表示する認証を受けた製品を製造している工場）で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者（コンクリート主任技士等）が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国生コンクリート品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定しなければならない。	1	3	3	2	1	1	JISマーク表示認証製品を製造している工場（産業標準化法（令和4年6月改正法律第68号）に基づき国に登録された民間の第三者機関（登録認証機関）により製品にJISマーク表示する認証を受けた製品を製造している工場）で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者（コンクリート主任技士等）が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国生コンクリート品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定しなければならない。	修正	
1	3	5	4	3	3	(2) 受注者は、ミキサの練混ぜ試験を、JIS A 8603-2（コンクリートミキサー第2部：練混ぜ性能試験方法）及び土木学会規準「連続ミキサの練混ぜ性能試験方法」により行わなければならない。	1	3	5	4	3	3	(2) 受注者は、ミキサの練混ぜ試験を、JIS A 8603-2（コンクリートミキサー第2部：練混ぜ性能試験方法）及びJISCE-I 502-2013「連続ミキサの練混ぜ性能試験方法」により行わなければならない。	1	3	5	4	3	3	受注者は、ミキサの練混ぜ試験を、JIS A 8603-2（コンクリートミキサー第2部：練混ぜ性能試験方法）及びJISCE-I 502-2013「連続ミキサの練混ぜ性能試験方法」により行わなければならない。	修正	
1	3	6	4	5	1	5.コンクリートポンプ使用時の注意	1	3	6	4	5	1	5.コンクリートポンプ使用時の注意	1	3	6	4	5	1	5.コンクリートポンプ使用時の注意	受注者はコンクリートポンプを用いる場合は、「コンクリートのポンプ施工指針（案）5章圧送」（土木学会、平成24年6月）の規定による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。また、受注者はコンクリートプレッサ、ベルトコンベヤ、その他を用いる場合も、材料の分離を防ぐようこれらを配置しなければならない。	誤植
1	3	7	3	3	1	3.鉄筋の曲げ半径	1	3	7	3	3	1	3.鉄筋の曲げ半径	1	3	7	3	3	1	3.鉄筋の曲げ半径	受注者は、鉄筋の曲げ形状の施工にあたり、設計図書に鉄筋の曲げ半径が示されていない場合は、「コンクリート標準示方書（設計編）本編第13章鉄筋コンクリートの前提、標準7編第2章鉄筋コンクリートの前提」（土木学会、平成30年3月）の規定による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	誤植

現行条文（令和4年版）						新条文（令和6年版）						改定理由											
編	章	節	条	項	項以下	編	章	節	条	項	項以下		編	章	節	条	項	項以下					
1	3	7	5	8	4														②機械式鉄筋継手工法の品質管理は、使用する工法に応じた確認項目や頻度、方法、合否判定基準等を施工計画書に明示した上で、施工管理や検査時においては、これに従って確認を行わなければならない。また、機械式鉄筋継手工法の信頼度は、土木学会鉄筋定着・継手指針（令和2年3月土木学会）の信頼度Ⅱ種を基本とするが、設計時にⅠ種を適用している場合は、設計時の信頼度に従って施工管理を行わなければならない。	②機械式鉄筋継手工法の品質管理は、使用する工法に応じた確認項目や頻度、方法、合否判定基準等を施工計画書に明示した上で、施工管理や検査時においては、これに従って確認を行わなければならない。また、機械式鉄筋継手工法の信頼度は、土木学会鉄筋定着・継手指針【2020年制定】（令和2年3月土木学会）の信頼度Ⅱ種を基本とするが、設計時にⅠ種を適用している場合は、設計時の信頼度に従って施工管理を行わなければならない。	誤植		
1	3	12	3	1	1	1.一般事項	1	3	12	3	1	1	1.一般事項	1	3	12	3	1	1	受注者は、海水の作用をうけるコンクリートの施工にあたり、品質が確保できるように、打込み、締固め、養生などを行わなければならない。	受注者は、海水の作用を受けるコンクリートの施工にあたり、品質が確保できるように、打込み、締固め、養生などを行わなければならない。	誤植	
							2	2	3	1	1	9									JIS A 5011-5（コンクリート用スラグ骨材-第5部：石灰ガス化スラグ骨材）	追加	
2	2	3	2	3	1	3.使用規定の例外	2	2	3	2	3	1	3.使用規定の例外	2	2	3	2	3	1	3.使用規定の例外	3.使用規定の例外	誤植	
2	2	6	1	4	1	4.異常なセメント使用時の注意	2	2	6	1	4	1	4.異常なセメント使用時の注意	2	2	6	1	4	1	4.異常なセメント使用時の注意	受注者は、貯蔵中に塊状になったセメントを、用いてはならない。また、湿気をうけた疑いのあるセメント、その他異常を認めたセメントの使用にあたっては、これを用いる前に試験を行い、その品質を確かめなければならない。ただし、保管期間が長期にわたると品質が変動する可能性があるため、長期間貯蔵したセメントは使用してはならない。	受注者は、貯蔵中に塊状になったセメントを、用いてはならない。また、湿気をうけた疑いのあるセメント、その他異常を認めたセメントの使用にあたっては、これを用いる前に試験を行い、その品質を確かめなければならない。ただし、保管期間が長期にわたると品質が変動する可能性があるため、長期間貯蔵したセメントは使用してはならない。	誤植
2	2	6	3	5	1	5.急結剤	2	2	6	3	5	1	5.急結剤	2	2	6	3	5	1	5.急結剤	急結剤は、「コンクリート標準示方書（規準編）JSCE-D 102-2018吹付けコンクリート（モルタル）用急結剤品質規格（案）」（土木学会、平成30年10月）の規格に適合するものとする。	急結剤は、「コンクリート標準示方書（規準編）【2018年制定】JSCE-D 102-2018吹付けコンクリート（モルタル）用急結剤品質規格（案）」（土木学会、2018年10月）の規格に適合するものとする。	誤植
2	2	8	3	0	2	再生用添加剤の品質は、労働安全衛生法施行（令和2年12月改正 政令第34号）に規定されている特定化学物質を含まないものとし、表2-2-24、表2-2-25、表2-2-26の規格に適合するものとする。	2	2	8	3	0	2	再生用添加剤の品質は、労働安全衛生法施行令（令和4年2月改正 政令第51号）に規定されている特定化学物質を含まないものとし、表2-2-24、表2-2-25、表2-2-26の規格に適合するものとする。	2	2	8	3	0	2	再生用添加剤の品質は、労働安全衛生法施行令（令和4年2月改正 政令第51号）に規定されている特定化学物質を含まないものとし、表2-2-24、表2-2-25、表2-2-26の規格に適合するものとする。	更新		
3	2	2	0	0	2	なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	3	2	2	0	0	2	また、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	3	2	2	0	0	2	なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	また、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	改定までの読替え明示	
3	2	2	0	0	13	日本薬液注入協会 薬液注入工法の設計・施工指針（平成元年6月）	3	2	2	0	0	13	日本クラウド協会 薬液注入工法の設計・施工指針（平成元年6月）	3	2	2	0	0	13	日本薬液注入協会 薬液注入工法の設計・施工指針（平成元年6月）	日本クラウド協会 薬液注入工法の設計・施工指針（平成元年6月）	更新	
3	2	2	0	0	15	環境省 水質汚濁に係る環境基準について（平成31年3月）	3	2	2	0	0	15	環境省 水質汚濁に係る環境基準（環境省告示第62号）（令和3年10月）	3	2	2	0	0	15	環境省 水質汚濁に係る環境基準について（平成31年3月）	環境省 水質汚濁に係る環境基準（環境省告示第62号）（令和3年10月）	修正	
3	2	2	0	0	18	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計施工指針（平成25年10月）	3	2	2	0	0	18	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針（平成25年10月）	3	2	2	0	0	18	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計施工指針（平成25年10月）	全国特定法面保護協会 のり枠工の設計・施工指針（平成25年10月）	修正	
3	2	2	0	0	19	地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説（平成24年5月）	3	2	2	0	0	19	地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説（平成24年5月）	3	2	2	0	0	19	地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説（平成24年5月）	地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説（平成24年5月）	修正	
3	2	2	0	0	46	土木学会 コンクリート標準示方書（規準編）（平成30年10月）	3	2	2	0	0	46	土木学会 コンクリート標準示方書（規準編）【2018年制定】（2018年10月）	3	2	2	0	0	46	土木学会 コンクリート標準示方書（規準編）（平成30年10月）	土木学会 コンクリート標準示方書（規準編）【2018年制定】（2018年10月）	誤植	
							3	2	2	0	0	47	地盤工学会 地山補強土工法設計・施工マニュアル（平成23年8月）	3	2	2	0	0	47		地盤工学会 地山補強土工法設計・施工マニュアル（平成23年8月）	新規追加	
3	2	3	2	4	10	②交通量が非常に多い期間	3	2	3	2	4	10	②交通量が非常に多い区間	3	2	3	2	4	10	②交通量が非常に多い期間	②交通量が非常に多い区間	誤植	
3	2	3	10	1	1	1.視線誘導標	3	2	3	10	1	1	1.視線誘導標	3	2	3	10	1	1	1.視線誘導標	受注者は、視線誘導標の施工にあたって、設置場所、建込角度が安全かつ十分な誘導効果が得られるように設置しなければならない。	受注者は、視線誘導標の施工にあたって、設置場所、建込角度が安全かつ十分な誘導効果が得られるように設置しなければならない。	読点
3	2	3	13	3	13	(9) プレストレッシング終了後のPC鋼材の切断は、機械的手法によるものとする。これによりがたい場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。	3	2	3	13	3	13	(9) プレストレッシング終了後のPC鋼材の切断は、機械的手法によるものとする。これによりがたい場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。	3	2	3	13	3	13	(9) プレストレッシング終了後のPC鋼材の切断は、機械的手法によるものとする。これによりがたい場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。	プレストレッシング終了後のPC鋼材の切断は、機械的手法によるものとする。これによりがたい場合は、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。	脱字	
3	2	3	14	2	4	なお、接着剤の試験方法は「コンクリート標準示方書（規準編）」（土木学会、平成30年10月）における、JSCE-H101-2013プレキャストコンクリート用樹脂系接着剤（橋げた用）品質規格による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	3	2	3	14	2	4	なお、接着剤の試験方法は「コンクリート標準示方書（規準編）【2018年制定】」（土木学会、2018年10月）における、JSCE-H 101-2013プレキャストコンクリート用樹脂系接着剤（橋げた用）品質規格による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	3	2	3	14	2	4	なお、接着剤の試験方法は「コンクリート標準示方書（規準編）」（土木学会、平成30年10月）における、JSCE-H101-2013プレキャストコンクリート用樹脂系接着剤（橋げた用）品質規格による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	なお、接着剤の試験方法は「コンクリート標準示方書（規準編）【2018年制定】」（土木学会、2018年10月）における、JSCE-H 101-2013プレキャストコンクリート用樹脂系接着剤（橋げた用）品質規格による。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	誤植	
3	2	4	4	21	14	(9) 受注者は、斜杭の場合の鋼杭及びH鋼杭の溶接にあたり、自重により継手が引張りをうける側から開始しなければならない。	3	2	4	4	21	14	(9) 受注者は、斜杭の場合の鋼杭及びH鋼杭の溶接にあたり、自重により継手が引張りをうける側から開始しなければならない。	3	2	4	4	21	14	(9) 受注者は、斜杭の場合の鋼杭及びH鋼杭の溶接にあたり、自重により継手が引張りをうける側から開始しなければならない。	受注者は、斜杭の場合の鋼杭及びH鋼杭の溶接にあたり、自重により継手が引張りをうける側から開始しなければならない。	誤植	

現行条文（令和4年版）										新条文（令和6年版）										改定理由
編	章	節	条	項	項以下	編章節条項	項以下	編	章	節	条	項	項以下	編章節条項	項以下					
3	2	4	5	13	1	13. 場所打杭工の杭頭処理	受注者は、場所打杭工の杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないように行わなければならない。また、受注者は、場所打杭工の施工にあたり、連続してコンクリートを打込み、レイタンス部分を除いて品質不良のコンクリート部分を見込んで設計図書に示す打上り面より孔内水を使用しない場合で50cm以上、孔内水を使用する場合で80cm以上高く打込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊さなければならない。オールケーシング工法による場所打杭の施工にあたっては、鉄筋天端高さまでコンクリートを打ち込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊すものとする。	3	2	4	5	13	1	13. 場所打杭工の杭頭処理	受注者は、場所打杭工の杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないように行わなければならない。また、受注者は、場所打杭工の施工にあたり、連続してコンクリートを打込み、レイタンス部分を除いて品質不良のコンクリート部分を見込んで設計図書に示す打上り面より孔内水を使用しない場合で50cm以上、孔内水を使用する場合で80cm以上高く打込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊さなければならない。オールケーシング工法による場所打杭の施工にあたっては、鉄筋天端高さまでコンクリートを打ち込み、硬化後、設計図書に示す高さまで取り壊すものとする。	誤植				
3	2	4	5	19	1	19. 泥水処理	受注者は、泥水処理を行うにあたり、水質汚濁に係る環境基準について（環境省告示）、都道府県公害防止条例等に従い、適切に処理を行わなければならない。	3	2	4	5	19	1	19. 泥水処理	受注者は、泥水処理を行うにあたり、水質汚濁に係る環境基準（環境省告示）、都道府県公害防止条例等に従い、適切に処理を行わなければならない。	修正				
3	2	5	3	2	1	2. コンクリートブロック積	コンクリートブロック積とは、プレキャストコンクリートブロックによって練積されたもので、法勾配が1：1より急なものをいうものとする。	3	2	5	3	2	1	2. コンクリートブロック積（張）	コンクリートブロック積とは、プレキャストコンクリートブロックによって練積されたもので、法勾配が1：1より急なものをいうものとする。	脱字				
3	2	5	3	4	1	4. コンクリートブロック工の空張の積上げ	受注者は、コンクリートブロック工の空張の積上げにあたり、胴がい及び尻かいを用いて固定し、胴込め材及び裏込め材を充填した後、天端付近に著しい空けきが生じないように入念に施工し、締固めなければならない。	3	2	5	3	4	1	4. コンクリートブロック工の空張の積上げ	受注者は、コンクリートブロック工の空張の積上げにあたり、胴がい及び尻かいを用いて固定し、胴込め材及び裏込め材を充填した後、天端付近に著しい空際が生じないように入念に施工し、締固めなければならない。	誤植				
3	2	6	7	4	16	(12)	受注者は、設計図書に示す場合を除き、加熱アスファルト安定処理混合物を敷均したときの混合物の温度は110℃以上、また、一層の仕上がり厚さは10cm以下としなければならない。ただし、混合物の種類によって敷均しが困難な場合は、設計図書に関して監督職員と協議の上、混合物の温度を決定するものとする。	3	2	6	7	4	16	(12)	受注者は、設計図書に示す場合を除き、加熱アスファルト安定処理混合物を敷均したときの混合物の温度は110℃以上、また、一層の仕上がり厚さは10cm以下としなければならない。ただし、混合物の種類によって敷均しが困難な場合や、中温化技術により施工性を改善した混合物を使用する場合、締固め効果の高いローラを使用する場合などは、設計図書に関して監督職員と協議の上、所定の締固めが得られる範囲で、混合物の適切な温度を決定するものとする。	文言追加				
3	2	7	6	1	1	1. 一般事項	受注者は、サンドマットの施工にあたり、砂のまき出しは均一に行い、均等に荷重をかけるようにしなければならない。	3	2	7	6	1	1	1. 一般事項	受注者は、サンドマットの施工にあたり、砂のまき出しは均一に行い、均等に荷重をかけるようにしなければならない。	誤植				
3	2	10	1	1	1	1. 適用工種	本節は、仮設工として工事用道路工、仮橋・仮橋脚工、路面覆工、土留・仮締切工、砂防仮締切工、水替工、地下水位低下工、地中連続壁工（壁式）、地中連続壁工（柱列式）、仮水路工、残土受入れ施設工、作業ヤード整備工、電力設備工、コンクリート製造設備工、トンネル仮設備工、共同溝仮設備工、防塵対策工、汚濁防止工、防護施設工、除雪工、雪寒施設工、法面吹付工その他これらに類する工種について定める。	3	2	10	1	1	1	1. 適用工種	本節は、仮設工として工事用道路工、仮橋・仮橋脚工、路面覆工、土留・仮締切工、砂防仮締切工、水替工、地下水位低下工、地中連続壁工（壁式）、地中連続壁工（柱列式）、仮水路工、残土受入れ施設工、作業ヤード整備工、電力設備工、コンクリート製造設備工、トンネル仮設備工、防塵対策工、汚濁防止工、防護施設工、除雪工、雪寒施設工、法面吹付工、足場工、その他これらに類する工種について定める。	文言追加、削除				
3	2	10	8	2	1	2. 周辺被害の防止	受注者は、周辺に井戸がある場合には、状況の確認に努め被害を与えないようにしなければならない。	3	2	10	8	2	1	2. 周辺被害の防止	受注者は、周辺に井戸がある場合には、状況の確認に努め被害を与えないようにしなければならない。	誤植				
3	2	12	2	7	7	(5)	受注者は、塗料の有効期限を、ジンクリッチペイントは製造後6ヶ月以内、その他の塗料は製造後12ヶ月とし、有効期限を経過した塗料は使用してはならない。工期延期等やむを得ない理由によって使用期間が、ジンクリッチペイントは6ヶ月を超えた場合、その他の塗料は12ヶ月を超えた場合は、抜き取り試験を行って品質を確認し、正常の場合使用することができる。	3	2	12	2	7	7	(5)	受注者は、塗料の有効期限を、ジンクリッチペイントは製造後6ヶ月以内、その他の塗料は製造後12ヶ月とし、有効期限を経過した塗料は使用してはならない。工期延期等やむを得ない理由によって使用期間が、ジンクリッチペイントは6ヶ月を超えた場合、その他の塗料は12ヶ月を超えた場合は、抜き取り試験を行って品質を確認し、正常の場合使用することができる。	誤字				
3	2	12	3	1	119	⑥	外部きずの検査について、磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に応じたJIS Z 2305（非破壊試験技術者の資格及び認証）に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。	3	2	12	3	1	119	⑥	外部きずの検査について、磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に応じたJIS Z 2305（非破壊試験技術者の資格及び認証）に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。	誤字				
3	2	15	3	9	1	9. 盛土材の敷均し及び締固め	受注者は、盛土材の敷均し及び締固めについては、第1編2-4-3路体盛土工の規定により一層ごとに適切に施工しなければならない。まき出し及び締固めは、壁面工側から順次奥へ行なうとともに、重機械の急停止や急旋回等避け、補強材にずれや損傷を与えないように注意しなければならない。	3	2	15	3	9	1	9. 盛土材の敷均し及び締固め	受注者は、盛土材の敷均し及び締固めについては、第1編2-4-3路体盛土工の規定により一層ごとに適切に施工しなければならない。まき出し及び締固めは、壁面工側から順次奥へ行なうとともに、重機械の急停止や急旋回等避け、補強材にずれや損傷を与えないように注意しなければならない。	誤植				
3	2	17	3	1	1	1. 樹木・芝生管理工の施工	受注者は、樹木・芝生管理工の施工については、時期、箇所について監督職員より指示を受けるものとし、完了後は速やかに監督職員に連絡しなければならない。また、芝生類の施工については、第3編2-14-2植生工の規定による。	3	2	17	3	1	1	1. 樹木・芝生管理工の施工	受注者は、樹木・芝生管理工の施工については、時期、箇所について監督職員より指示を受けるものとし、完了後は速やかに監督職員に連絡しなければならない。また、芝生類の施工については、第3編2-14-2植生工の規定による。	誤植				

現行条文（令和4年版）						新条文（令和6年版）						改定理由					
編	章	節	条	項	項以下	編	章	節	条	項	項以下		編	章	節	条	項
3	2	17	3	2	1	2. 剪定の施工	受注者は、剪定の施工にあたり、「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」の 策定 について（厚生労働省令和2年1月）によるものとし、各樹種の特性及び施工箇所合った剪定形式により行わなければならない。	3	2	17	3	2	1	2. 剪定の施工	受注者は、剪定の施工にあたり、「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」の 改正 について（厚生労働省 令和2年1月）によるものとし、各樹種の特性及び施工箇所合った剪定形式により行わなければならない。	修正	
4	1	1	0	6	1	6. 河積阻害等の防止	受注者は、河川工事の仮締切、瀬がえ等において、河積阻害や河川管理施設、許可工作物等に対する局所的な洗掘等を避けるように施工をしなければならない。	4	1	1	0	6	1	6. 河積阻害等の防止	受注者は、河川工事の仮締切、瀬替え等において、河積阻害や河川管理施設、許可工作物等に対する局所的な洗掘等を避けるように施工をしなければならない。	誤植	
4	3	2	0	2	5		国土交通省 河川砂防技術基準（令和3年4月）	4	3	2	0	2	5		国土交通省 河川砂防技術基準（令和4年6月）	年度更新	
4	3	2	0	5	7		国土交通省 機械工事共通仕様書（案）（令和3年3月）	4	3	2	0	5	7		国土交通省 機械工事共通仕様書（案）（令和4年3月）	年度更新	
4	3	5	6	6	8	(7)	受注者は、プレキャスト工法等で底版と均しコンクリートの間に空隙が残ることが 避けられない 場合には、セメントミルク等でグラウトしなければならない。	4	3	5	6	6	8	(7)	受注者は、プレキャスト工法等で底版と均しコンクリートの間に空隙が残ることが 避けられない 場合には、セメントミルク等でグラウトしなければならない。	誤植	
4	5	1	0	5	1	5. 適用規定（3）	受注者は、扉体、戸当り及び開閉装置の製作、据付けは「機械工事共通仕様書（案）」（国土交通省、令和3年3月）の規定による。	4	5	1	0	5	1	5. 適用規定（3）	受注者は、扉体、戸当り及び開閉装置の製作、据付けは「機械工事共通仕様書（案）」（国土交通省、令和4年3月）の規定による。	年度更新	
5	2	5	4	1	1	1. 施工上の注意	受注者は、施工箇所における海水汚濁防止に つと めなければならない。	5	2	5	4	1	1	1. 施工上の注意	受注者は、施工箇所における海水汚濁防止に 努め なければならない。	誤植	
5	2	5	11	12	1	12. ゲート閉鎖	受注者は、ゲート閉鎖は、進水に先立ちドック戸当たり近辺の異物及び埋設土砂を除去、清掃し、ゲート本体の保護に つと めなければならない。	5	2	5	11	12	1	12. ゲート閉鎖	受注者は、ゲート閉鎖は、進水に先立ちドック戸当たり近辺の異物及び埋設土砂を除去、清掃し、ゲート本体の保護に 努め なければならない。	誤植	
5	2	5	11	24	1	24. 曳航、回航にあたっての事故防止	受注者は、ケーソン曳航、回航にあたっては、監視を十分にを行い、他航行船舶との事故防止に つと めなければならない。	5	2	5	11	24	1	24. 曳航、回航にあたっての事故防止	受注者は、ケーソン曳航、回航にあたっては、監視を十分にを行い、他航行船舶との事故防止に 努め なければならない。	誤植	
6	1	2	0	0	4		土木学会 コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編）（平成25年10月）	6	1	2	0	0	4		土木学会 コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編） 【2013年制定】 （2013年10月）	誤植	
6	1	2	0	0	5		土木学会 コンクリート標準示方書（施工編）（平成30年3月）	6	1	2	0	0	5		土木学会 コンクリート標準示方書（施工編） 【2017年制定】 （2018年3月）	誤植	
6	1	8	1	1	1	1. 適用工種	本節は、コンクリート堰堤工として作業土工（床掘り・埋戻し）、埋戻し工、コンクリート堰堤本体工、コンクリート側壁工、コンクリート副堰堤工、間詰工、水叩工その他これらに類する工種について定める。	6	1	8	1	1	1	1. 適用工種	本節は、コンクリート堰堤工として作業土工（床掘り・埋戻し）、埋戻し工、コンクリート堰堤本体工、コンクリート副堰堤工、コンクリート側壁工、間詰工、水叩工その他これらに類する工種について定める。	誤植	
6	3	2	0	0	5		全国特定法面保護協会 のり砕工の設計施工指針（平成25年10月）	6	3	2	0	0	5		全国特定法面保護協会 のり砕工の設計・施工指針（平成25年10月）	修正	
6	3	2	0	0	10		地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説（平成24年5月）	6	3	2	0	0	10		地盤工学会 グラウンドアンカー設計・施工基準・同解説（平成24年5月）	修正	
6	3	2	0	0	12		斜面防災対策技術協会 新版地すべり鋼管杭設計要領（平成28年3月）	6	3	2	0	0	12		斜面防災対策技術協会 新版 地すべり鋼管杭設計要領（平成28年3月）	スペース	
6	3	6	1	1	1	1. 適用工種	本節は、山腹水路工として作業土工（床掘り・埋戻し）、山腹集水路・排水路工、山腹明暗渠工、山腹暗渠工、集水樹工、現場排水路工その他これらに類する工種について定める。	6	3	6	1	1	1	1. 適用工種	本節は、山腹水路工として作業土工（床掘り・埋戻し）、山腹集水路・排水路工、山腹明暗渠工、山腹暗渠工、現場排水路工、 集水樹工 、その他これらに類する工種について定める。	誤植	
6	3	9	1	3	1	3. 杭建て込みのための削孔	受注者は、杭建て込みのための削孔にあたっては、地形図、土質柱状図等を検討して、地山のかく乱、地すべり等の誘発をさけるように施工しなければならない。	6	3	9	1	3	1	3. 杭建て込みのための削孔	受注者は、杭建て込みのための削孔にあたっては、地形図、土質柱状図等を検討して、地山のかく乱、地すべり等の誘発を 避ける ように施工しなければならない。	誤植	
6	3	9	3	3	1	3. 人工泥水	受注者は、削孔に人工泥水を用いる場合は、沈殿槽や排水路等からの水の逆流、地盤への浸透を さ けなければならない。	6	3	9	3	3	1	3. 人工泥水	受注者は、削孔に人工泥水を用いる場合は、沈殿槽や排水路等からの水の逆流、地盤への浸透を 避 けなければならない。	誤植	
7	1	2	0	0	4		土木学会 コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編）（平成25年10月）	7	1	2	0	0	4		コンクリート標準示方書（ダムコンクリート編） 【2013年制定】 （2013年10月）	誤植	
7	1	3	5	1	2		なお、設計図書に示す予定掘削線は、岩質の状況により監督職員が変更する場合があります。	7	1	3	5	1	2		なお、設計図書に示す予定掘削線は、岩質の状況により監督職員が変更を 指示 する場合があります。	文言追加	
7	1	4	7	4	1	4. バケットの構造	バケットの構造は、コンクリートの投入及び排出の際に材料の分離を起こさないものであり、また、バケットからのコンクリートの排出が容易でかつ、速やかなものとする。	7	1	4	7	4	1	4. バケットの構造	バケットの構造は、コンクリートの投入及び排出の際に材料の分離を起こさないものであり、また、バケットからのコンクリートの排出が容易でかつ速やかなものとする。	句点	
7	1	4	9	8	1	8. 異コンクリートの打継ぎ	受注者は、異なったコンクリートを打継ぐ場合には、その移り目で、配合の急変を さ けるようコンクリートを打込まなければならない。	7	1	4	9	8	1	8. 異コンクリートの打継ぎ	受注者は、異なったコンクリートを打継ぐ場合には、その移り目で、配合の急変を 避 けるようコンクリートを打込まなければならない。	誤植	
7	2	3	3	2	1	2. 過掘の処理	受注者は、過掘をした場合は、その処理について監督職員と協議しなければならない。	7	2	3	3	2	1	2. 過掘りの処理	受注者は、過掘をした場合は、その処理について監督職員と協議しなければならない。	誤植	
7	2	3	1	6	1	6. オーバーサイズの除去	受注者は、 ま き出し時のコア材及びフィルター材のオーバーサイズ等は、除去しなければならない。	7	2	3	1	6	1	6. オーバーサイズの除去	受注者は、 巻 出し時のコア材及びフィルター材のオーバーサイズ等は、除去しなければならない。	誤植	
7	2	3	5	2	1	2. まき出し	受注者は、 ま き出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。	7	2	3	5	2	1	2. 巻出し	受注者は、 巻 出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。	誤植	
7	2	3	5	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、 ま き出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。	7	2	3	5	3	1	3. 巻出し厚と転圧	受注者は、 巻 出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。	誤植	

現行条文（令和4年版）						新条文（令和5年版）						改定理由					
編	章	節	条	項	項以下	編	章	節	条	項	項以下		編	章	節	条	項
7	2	3	5	4	1	4. まき出された材料の含水比	受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す含水比を確保できない場合には、設計図書に関して、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	7	2	3	5	4	1	4. 巻出し材料の含水比	受注者は、巻出された材料が、設計図書に示す含水比を確保できない場合には、設計図書に関して、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	誤植	
7	2	3	5	5	1	5. 層間の密着性の確保	受注者は、既に締固めた層の表面が過度に乾燥、湿潤または平滑となっており上層との密着が確保できない場合には、監督職員の指示に従い、散水あるいはスガリファイヤー等の方法で処置し、この部分の締固め完了後にまき出しを行わなければならない。	7	2	3	5	5	1	5. 層間の密着性の確保	受注者は、既に締固めた層の表面が過度に乾燥、湿潤または平滑となっており上層との密着が確保できない場合には、監督職員の指示に従い、散水あるいはスガリファイヤー等の方法で処置し、この部分の締固め完了後に巻出しを行わなければならない。	誤植	
7	2	3	6	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。	7	2	3	6	2	1	2. 巻出し	受注者は、巻出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。	誤植	
7	2	3	6	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。	7	2	3	6	3	1	3. 巻出し厚と転圧	受注者は、巻出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。	誤植	
7	2	3	6	4	1	4. まき出された材料の粒度	受注者は、まき出された材料が、設計図書に示す粒度と合致していない場合には、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	7	2	3	6	4	1	4. 巻出された材料の粒度	受注者は、巻出された材料が、設計図書に示す粒度と合致していない場合には、監督職員の指示に従い処置しなければならない。	誤植	
7	2	3	7	2	1	2. まき出し	受注者は、まき出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。	7	2	3	7	2	1	2. 巻出し	受注者は、巻出しにあたっては、ダム軸と平行に、平らな面となるように施工しなければならない。	誤植	
7	2	3	7	3	1	3. まき出し厚と転圧	受注者は、まき出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。	7	2	3	7	3	1	3. 巻出し厚と転圧	受注者は、巻出し厚、転圧機械及び転圧回数については、設計図書によらなければならない。	誤植	
7	2	3	7	4	1	4. 大塊・小塊のまき出し	受注者は、小塊を基礎地盤または基礎岩盤及びフィルター側にまき出さなければならない。また、大塊は、堤体外周側になるようにまき出さなければならない。	7	2	3	7	4	1	4. 大塊・小塊の巻出し	受注者は、小塊を基礎地盤または基礎岩盤及びフィルター側に巻出さなければならない。また、大塊は、堤体外周側になるように巻出さなければならない。	誤植	
8	1	2	0	0	2		なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	8	1	2	0	0	2		また、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員と協議しなければならない。	改定までの読替え明示	
8	1	2	0	0	13		日本道路協会 落石対策便覧（平成12年6月）	8	1	2	0	0	13		日本道路協会 落石対策便覧（平成29年12月）	発行日修正	
8	1	2	0	0	19		日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック（除雪編）（平成16年12月）	8	1	2	0	0	19		日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック（除雪編）（平成16年12月）	修正	
8	1	2	0	0	21		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	1	2	0	0	21		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	スペース	
8	2	2	0	0	26		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	2	2	0	0	26		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	スペース	
8	2	5	1	2	1	2. 適用規定	排水構造物工（路面排水工）の施工については、道路土工要綱の排水施設の施工の規定及び本編2-5-3側溝工、2-5-5集水柵（街渠柵）・マンホール工の規定による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	8	2	5	1	2	1	2. 適用規定	排水構造物工（路面排水工）の施工については、道路土工要綱の排水施設の施工の規定及び本編第8編2-5-3側溝工、2-5-5集水柵（街渠柵）・マンホール工の規定による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	表記の統一	
8	2	9	1	3	1	3. 適用規定	受注者は、標識工の施工にあたって、「道路標識設置基準・同解説 第4章 道路標識の設計、施工」（日本道路協会、令和2年6月）の規定、「道路土工要綱 第5章 施工計画」（日本道路協会、平成21年6月）の規定、第3編2-3-6小型標識工、2-3-3作業土工（床掘り・埋戻し）、2-10-5土留・仮締切工の規定、及び「道路標識ハンドブック」（全国道路標識・標示業協会、令和元年8月）による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	8	2	9	1	3	1	3. 適用規定	受注者は、標識工の施工にあたって、「道路標識設置基準・同解説 第4章 道路標識の設計、施工」（日本道路協会、令和2年6月）の規定、「道路土工要綱 第5章 施工計画」（日本道路協会、平成21年6月）の規定、第3編2-3-6小型標識工、2-3-3作業土工（床掘り・埋戻し）、2-10-5土留・仮締切工の規定、及び「道路標識ハンドブック」（全国道路標識・標示業協会、令和4年1月）による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	表記の統一、発行年月	
8	2	10	1	3	1	3. 適用規定	受注者は、区画線工の施工にあたって、「道路標識・区画線及び道路表示に関する命令」、及び第3編2-3-9区画線工の規定による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	8	2	10	1	3	1	3. 適用規定	受注者は、区画線工の施工にあたって、「道路標識・区画線及び道路表示に関する命令」、及び第3編2-3-9区画線工の規定による。これにより難しい場合は、監督職員の承諾を得なければならない。	修正	
8	2	10	2	2	1	2. 区画線の指示方法	区画線の指示方法について設計図書に示されていない事項は「道路標識・区画線及び道路標示に関する命令」により施工する。	8	2	10	2	2	1	2. 区画線の指示方法	区画線の指示方法について設計図書に示されていない事項は「道路標識・区画線及び道路標示に関する命令」により施工する。	修正	
8	3	1	0	5	3	(2)	微破壊・非破壊試験は「微破壊・非破壊試験によるコンクリート構造物の強度測定要領」（以下、「要領」という。）（国土交通省、平成24年3月）に従い行わなければならない。	8	3	1	0	5	3	(2)	微破壊・非破壊試験は「微破壊・非破壊試験によるコンクリート構造物の強度測定要領」（以下、「要領」という。）（国土交通省、平成30年10月）に従い行わなければならない。	発行日修正	
8	3	2	0	0	18		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	3	2	0	0	18		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	スペース	
8	4	2	0	0	15		日本道路協会 鋼道路橋の疲労設計便覧（令和2年9月）	8	4	2	0	0	15		日本道路協会 鋼道路橋疲労設計便覧（令和2年9月）	誤字	
8	4	2	0	0	19		日本みち研究所 補訂版道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	4	2	0	0	19		日本みち研究所 補訂版 道路のデザイン—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	スペース	

現行条文（令和4年版）						新条文（令和6年版）						改定理由							
編	章	節	条	項	項以下	編	章	節	条	項	項以下		編	章	節	条	項	項以下	
8	5	2	0	0	16	建設省土木研究所 プレキャストブロック工法によるプレストレストコンクリート道路橋設計・施工指針（案）（平成7年12月）	8	5	2	0	0	16	建設省 土木研究所 プレキャストブロック工法によるプレストレストコンクリート道路橋設計・施工指針（案）（平成7年12月）					スペース	
8	5	2	0	0	18	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	5	2	0	0	18	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	6	2	0	0	6	土木学会 トンネル標準示方書山岳工法編・同解説（平成28年8月）	8	6	2	0	0	6	土木学会 トンネル標準示方書山岳工法編・同解説【2016年制定】（平成28年8月）						誤植
8	6	2	0	0	7	土木学会 トンネル標準示方書開削工法編・同解説（平成28年8月）	8	6	2	0	0	7	土木学会 トンネル標準示方書開削工法編・同解説【2016年制定】（平成28年8月）						誤植
8	6	2	0	0	8	土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説（平成28年8月）	8	6	2	0	0	8	土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説【2016年制定】（平成28年8月）						誤植
8	6	2	0	0	18	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	6	2	0	0	18	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	6	3	2	1	1	1.一般事項 受注者は、トンネル掘削により地山をゆるめないように施工するとともに、過度の爆破を避け、余振を少なくするよう施工しなければならない。	8	6	3	2	1	1	1.一般事項 受注者は、トンネル掘削により地山をゆるめないように施工するとともに、過度の爆破を避け、余振を少なくするよう施工しなければならない。						誤植
							8	6	5	3	11	1	11. 横断目地 トンネル覆工コンクリートの目地の形状は「三角形形状」を標準とする。						新規追加
							8	6	5	3	11	2	なお、これによりがたい場合は、監督職員と協議しなければならない。						新規追加
8	6	5	3	11	1	11. 打設時期 受注者は、覆工コンクリートの打設時期を計測（A）の結果に基づき、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。	8	6	5	3	12	1	12. 打設時期 受注者は、覆工コンクリートの打設時期を計測（A）の結果に基づき、設計図書に関して監督職員と協議しなければならない。						
8	7	2	0	0	16	土木学会 コンクリート標準示方書（設計編）（平成30年3月）	8	7	2	0	0	16	土木学会 コンクリート標準示方書（設計編）【2017年制定】（2018年3月）						誤植
8	7	2	0	0	17	土木学会 コンクリート標準示方書（施工編）（平成30年3月）	8	7	2	0	0	17	土木学会 コンクリート標準示方書（施工編）【2017年制定】（2018年3月）						誤植
8	7	2	0	0	18	日本道路協会 落石対策便覧（平成12年6月）	8	7	2	0	0	18	日本道路協会 落石対策便覧（平成29年12月）						発行日修正
8	7	2	0	0	22	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	7	2	0	0	22	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	8	2	0	0	21	日本道路協会 落石対策便覧（平成12年6月）	8	8	2	0	0	21	日本道路協会 落石対策便覧（平成29年12月）						発行日修正
8	8	2	0	0	23	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	8	2	0	0	23	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	9	2	0	0	7	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	9	2	0	0	7	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	10	2	0	0	7	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	10	2	0	0	7	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	11	2	0	0	5	土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説（平成28年8月）	8	11	2	0	0	5	土木学会 トンネル標準示方書シールド工法編・同解説【2016年制定】（平成28年8月）						誤植
8	11	2	0	0	6	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	11	2	0	0	6	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	12	2	0	0	4	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	12	2	0	0	4	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	13	2	0	0	4	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	13	2	0	0	4	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	14	2	0	0	15	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	14	2	0	0	15	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース
8	14	14	7	5	1	5. 落下物防止対策 受注者は、河川及び供用道路上等で、旧橋撤去工を行う場合は、撤去に伴い発生するアスファルト殻、コンクリート殻及び撤去に使用する資材の落下を防止する対策を講じ、河道及び交通の確保につとめなければならない。	8	14	14	7	5	1	5. 落下物防止対策 受注者は、河川及び供用道路上等で、旧橋撤去工を行う場合は、撤去に伴い発生するアスファルト殻、コンクリート殻及び撤去に使用する資材の落下を防止する対策を講じ、河道及び交通の確保に努めなければならない。						誤植
8	14	20	4	0	2	受注者は、路肩正整の施工については、路面排水を良好にするため路肩の堆積土砂を削り取り、または土砂を補給して正整し、締固めを行い、設計図書に示す形状に仕上げなければならない。	8	14	20	4	0	2	受注者は、路肩正整の施工については、路面排水を良好にするため路肩の堆積土砂を削り取り、または土砂を補給して正整し、締固めを行い、設計図書に示す形状に仕上げなければならない。						誤字
8	15	2	0	0	5	日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック（除雪編）（平成16年12月）	8	15	2	0	0	5	日本建設機械化協会 除雪・防雪ハンドブック（除雪編）（平成16年12月）						修正
8	15	2	0	0	10	日本みち研究所 補訂版道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）	8	15	2	0	0	10	日本みち研究所 補訂版 道路のデザイナー—道路デザイン指針（案）とその解説—（平成29年11月）						スペース

